

# 私のはんせい記

～「改修設計」事始め～

建築家 三木 哲

## ● 耐震改修事例 その3

### カリタスの園・小百合の寮(前編)

2歳から18歳まで育児放棄、貧困などで親の養育が難しいと判断された子供が生活する施設で、児童福祉法で定める児童福祉施設の一つである。

2008年当時、全国に約570の児童養護施設があり、約3万人が生活していた。

「大舎制」「中舎制」「小舎制」「グループホーム」などの運営形態がある。

杉並区井草公園に隣接し幼稚園、乳児院と併設して建つ東西に長い鉄筋コンクリート造3階建ての建物があり、昭和47年に建設された。

約50名の幼児・学童と保育士、事務員、栄養士など61名が生活し、皆が一つの家とする「大舎制」の運営がされていた。

東側の正門から敷地に入ると、正面に管理棟、南に乳児院つぼみの寮、北に児童養護施設「小百合の寮」が配置されていた。

門の横で南に突出する事務室ウイングと、東西に長い本館の付根部に玄関があり、玄関の奥は階段。玄関を入ると左に応接室があり、応接室と階段の間に本館・中廊下の入口があった。

応接室の奥は幼児の居室があり、廊下を隔てた北側に食堂と厨房、その奥に共同浴場や洗濯室があった。1階西の一番奥は年長の男子学童が生活していた。2階は学童以上高校生までの男女別の居室が、3階には保育士の居室があった。

「大舎制」では食堂や入浴、洗濯場が全員の共用スペースで、順に食事し、風呂に入り洗濯していた。

大舎制をグループ化し、建物の耐震性を向上するリフォームが長年の小百合の寮の願いであった。

寮生を7～9人の小グループの生活空間に分割し、家庭的な落ち着きがあり、相互や保育士との親密なコミュニティーを形成することを目的とした。

私達は2008年に杉並区の耐震アドバイザー派遣を契機に小百合の寮の耐震化とグループホーム化改修計画に取組んだ。

敷地・建物の使用状況や類似施設を調査し、小百合の寮の保育士・職員とリフォーム事業チームを作り、設計をまとめた。



リフォーム計画の方向は次の通りである。

- ①50人の寮生を1グループ7～9人の6つに分け、グループ別の生活空間に分割する。
- ②建物の北・東側のボイラー室・倉庫・車庫・駐輪場などを全て除却し、北東側に増築する。
- ③内外装材を除却しスケルトン改修とする。
- ④7～9人の生活空間は食卓とアイランド型キッチンを中心とした集まり部屋と、これを囲む寮生の個室、浴室・洗面脱衣・洗濯機置場、便所、保育士室などで構成する。
- ⑤北東側に各ユニットの浴室・便所や保育士室とし、更にその外側に共用廊下を配置し、中廊下型プランから片(外)廊下型の平面計画に変更する。
- ⑥南側に耐震補強を兼ねた外フレームを増築し、2方向避難と洗濯物干しを兼ねたバルコニーとする。

以上を基本計画とし、基本設計図を施設長、保育士、職員を始めカリタスの園・理事会と合意した。

各ユニット間の戸境壁の一部を鉄筋コンクリート造の耐震壁とし、南側のバルコニーを外付けアウトフレームとしJASOの判定を受けた。

また、杉並区と事前協議を行い、敷地の測量を行い、日影規制に対応した。

杉並区建築指導課と協議し、意匠設計、構造設計、給排水衛生・空調設備、電気設備の実施設計図を作製し、杉並区に建築確認申請を提出した。

建築確認申請後、数社の建設会社に見積依頼し練馬区のゼネコンと請負契約を結び着工した。

2011年11月に着工し、2013年5月に竣工した。アドバイザー派遣から5年間に要した。

工事中、隣接する駐車場にプレハブで幼児の寮生、2ユニットが仮住いする建物を建設し生活してもらった。また厨房は休止し、食事は外部委託し供給を受けた。

(この項続く)

### みき・てつ

(有)共同設計・五月社一級建築士事務所顧問。1943年生まれ。

URD・建築再生総合設計協同組合・管理建築士。

建築家がメンテナンスを手がけることなど考えられなかった時代から「改修」に携わり、30年以上にわたって同分野を開拓し続けてきたバイオニア。